



ワインツーリズム

中山間地域にある山梨市牧丘町の小さな商店街。ご多分にもれずここも店の数は年々減少し、シャッター通り化が著しい。平日は勿論、週末でも人通りはまばらで、閑古鳥が鳴くばかり。ところがこの十一月八日、大勢の人たちで、一時ではあるがにぎわいを取り戻した。こうした中で酒屋とワイナリーを守り続けている三養醸造の前で、バスが止まるたびに一〇人、二〇人と大勢の客が乗り降りする▼これらは「ワインツーリズムやまなし」への参加者たち。ワインツーリズムは、「ガイド資料を見ながらワイナリーやブドウ畑、飲食店など地域をめぐって」歩く旅を提案するもので、ワイナリーをめぐってのテイステイキングを主とする。今年で六回目。甲州市（勝沼・塩山）、笛吹市（石和・御坂・八代・一宮）、甲府市、山梨市（牧丘・山梨市）にある約五〇社のワイナリーが参加。十一月八日と九日とでエリアを二つに分けて専用バスが運行し、いくつものコースを巡回する。バス利用とテイステイキングする両日共通のチケット代は五〇〇〇円。首都圏はじめ各地から二〇〇〇人前後が押し寄せる▼ワイン愛好者増加が背景にあるが、参加者の多くはテイステイキングすると同時に、ブドウ畑も含めた生産現場の確認をもねらいとしており、その後、これを機に気に入ったワイナリーを個人的に再訪するものが多い。参加者の中心は三〇代、四〇代の女性で、数人でのグループが多い。現場との往復を含めた関係性重視と強いこだわり、結果として国産自給につながるあらたな消費行動に注目したい。

(土着菌)